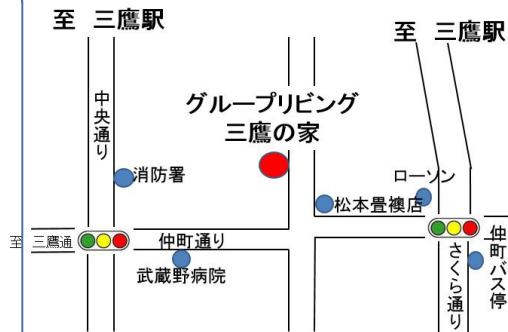


佐々井秀嶺上人って、どんな人？

1935年 岡山県生まれ
 1960年 高尾山薬王院で出家
 1965年 タイ留学
 1966年 インドコルカタ日本山妙法寺へ
 1967年 インドナグプールへ
 1988年 インド国籍取得
 2003年 インド少数者委員会仏教徒代表
 2009年 来日。南禅寺、永平寺、総持寺等で講演。
 2011年 来日(東日本大震災慰霊行脚)
 2015年 高野山大学招待講演

インドでは、カースト以下の差別を受けている、ダリット(不可触民)の支援活動をしている。毎年秋には、ヒन्दウー教徒の仏教への集団改宗を行っている(大改宗式)

みたか・みんなの広場は、みなさんのために開放されています。雑談に、お茶にご利用ください。



みたか・みんなの広場
 三鷹市下連雀4-5-19
 グループリビングみたかの家内

開催日時	テーマ	参加費用	主催・問い合わせ
5月30日 (月) 13:30~15:00	リレートーク 浅沼 幸子さん(茶壺房代表) 「紅茶こぼれ話」	200円	みたか・みんなの広場 なりきよ ☎080-1362-5359
6月1日 (水) 14:00~15:30	みたかオレンジカフェ 認知症、高齢者介護なんでも相談 (毎月第1水曜日)	無料	みたか・認知症家族支援の会 石村 ☎080-6627-3551
6月4日 (土) 15:00~16:00	鉄ちゃん、集合！ 私は乗り鉄、あなたは、撮り鉄？ (毎月第1土曜日)	中学生以下100円、大人300円	みたか・みんなの広場 鈴木 ☎080-1022-2281
6月11日 (土) 13:30~15:00	般若心経カフェ(毎月第2土曜日) 初期仏教の経典を読む(500円)		みたか・みんなの広場 なりきよ ☎080-1362-5359
6月16日 (木) 13:30~15:00	茶話会「これからのいろいろを話しましょう」 (毎月第3木曜日)	500円	HumannLoop“人の輪” 竹内 ☎090-7632-7251
6月17日 (金) 19:00~21:00	親の介護を考える相談会 介護でお悩みの方・予約優先	500円	NPO法人グレースケア 山田 ☎0422-70-2805
6月18日 (土) 13:30~15:00	タロットカードセラピー (毎月第3土曜日、前日までに予約を)	占い3,000円/30分 指導500円	日本タロットカード占術協会 副会長 ミスティ・ローザ ☎080-1362-5359 (なりきよ)
6月23日 (木) 14:30~16:00	親子で楽しむ科学あそび スライムとアイロンビーズあそびー (1家族300円、3家族8人まで、要・電話申し込み)		三鷹科学遊びの会 石村 ☎080-6627-3551
6月27日 (月) 13:30~15:00	リレートーク 是枝 嗣人さん(一般社団法人 The Egg Tree House) 「悲しみに寄り添うグリーンサポート」(200円)		みたか・みんなの広場 なりきよ ☎080-1362-5359
2016/6/28 (火) 19:00~21:00	タときオレンジカフェ・みたか 認知症、高齢者介護なんでも相談 (毎月第4火曜日)	無料	みたか・認知症家族支援の会 石村 ☎080-6627-3551
毎週火曜日	マッサージ教室 (外反母趾対策)	主催者までお問い合わせ ください。	篠山(しのやま) 090-8558-1014

みたか
みんなの広場

NPO法人HumannLoop“人の輪”
http://humannloop.web.fc2.com/

NPO法人グレースケア機構
http://g-care.org/

みたか・認知症家族支援の会
http://mitakanfs.blog.fc2.com/

NPO法人日本シニアジョブクラブ
http://jsjc.web.fc2.com/

三鷹市医療と福祉をすすめる会

三鷹科学遊びの会

2016年6月

三鷹市民の集いの場
みたか
みんなの広場

みたか・みんなの広場運営協議会
三鷹市下連雀4-5-19
http://minnannohiroba.web.fc2.com/
☎080-1362-5359 なりきよ

第23回市民リレートーク 柳本文貴さん 「介護保険で準備すること」

介護保険にどこまで頼れるのか、グレース・ケアとして、介護サービスをどのようにやっているのか、街づくりの取り組みも始めましたのでそのご紹介も含めて、考えてみたいと思います。

介護保険の状況は、自己負担はどんどん増えていくけれども、サービス内容は限られていく、施設にも入りにくい、在宅のほうでもヘルパーさんがいなくて十分なことができていない、ということが言えるかと思います。

介護保険は日常生活の最低のレベルを維持するというルールがあるので、個別のケアは無理なのです。NHKの放送では、介護職が少なくてもとやってみられない、そのため利用できない方が介護難民になったり、孤独死になったりしているという大変な状況のなかで、グレース・ケアとしてはお金を負担していただくことで、支え手を増やしたり、できることも増える、というご紹介をしていただきました。

厚生労働省と経済産業省が「地域包括ケアシステム構築に向けた公的介護保険外サービスの参考事例集」という資料を出しましたが、国は制度を抑制するので、保険外でなんとかしなさい、という内容です。掲載団体のうち、NPOはグレース・ケアだけで、あとは普通の大手の企業が市場に参集している状況で、ともすれば大きな資本を持っている企業が6割の資産を持っている市場を持って行こうとする実体があるような気がします。

格差社会と言いますが、介護も報酬が上がらなくて人が定着しないなかで、資産のある部分のお金を回すのが大事なので、NPOが自費の事業をやっていくことで、お金の流れができるんじゃないかと考えています。

グレース・ケアの登録スタッフは、90名から100名くらい、稼働しているのは50名くらいですが、介護保険が苦手で、楽しみとか遊びとか社会参加とか仕事について、私たちは対応することができるように体制づくりをしています。



帝国ホテルにランチに行き帰りに演劇を見たり、伊豆に昔住んでいた家を見に行ったこともあります。

金沢にはご両親、ご家族と一緒にいきました。ご両親はヘルパーと一緒にいやだ、ということだったので、娘さんの友だちという設定で、車で待ち合わせをして、娘さんとも初めて会うのですが、「やあ、久しぶり。元気？」と昔からの友達みたいに演じたりして、娘さんだけではできなかった露天風呂にはいることもできました。

認知症の方で、デイ・サービスにいくつが行ったのですが、ご本人がどこの施設も怒って帰ってくるということで、家の外で待っていて、出てきたときに後をつけていく、そのうちに仲良くなって、いっしょに食事をするようになった、という例もあります。

いまは病院にも長くはられないことになっているので、痰の吸引や胃瘻(いろう)の方のお世話をするヘルパーの養成をして、病院の中からの依頼にもこたえられるようにしていこうと思っています。

上野千鶴子さんは、看取りをするのに、医師はいらない、看護士もいない、介護職もいない、と医療至上主義に対して警告を発しています。これからは、街中でのここのような助け合いの場所が必要であるとも思ったりします。

これからも、公的な制度の充実を求めています。一方では、自分たちでやれることはやってしまったほうが早いということもあるので、そのあたりをどう組み合わせるか、ということだと思います。これからは、高度成長の時代ではなくて、ささえ合いとか助け合いの仕組みができてくる時代だと思っています。

ありがとうございました。

シリーズ「市民のお葬式」Part 1 宗教家と語るお葬式

2016年5月7日
於三鷹市民協働センター

「仏教での死と葬儀」 浄土宗信楽院副住職 内田智康さん

私は現在、信楽院の副住職として活動をさせていただいています。

最近、日本の葬儀が急激な変化を見せ始めています。直葬つまり、お亡くなりになったら、なんの儀式もせずに火葬をする、とか、一日葬とか宗教者抜きのお別れ会とかいろいろなやり方、簡略化された葬儀が増えていきます。結局、葬儀に宗教者が関わってくる、その意義がわからないし、それに手間暇をかけることはどうなのか、そういう感覚が芽生えてきたということだと思います。そして、「葬式はいらない」とか「戒名を自分で決める」という本も販売されています。

そこで、葬儀は不要、ということですが、現代の科学的、合理的な考えによれば、死んでしまえばただの物体だということですから、そこになんの儀式も要らないという考え方がでてくるのも当然のことだと思います。手間暇や費用を最小限に抑えることができるというメリットもあります。ただ、葬儀をやらないという選択をするのは、故人ではなく、送り出す側ですから、送り出す側の強い覚悟が必要になります。生命活動が終わればすべて無に帰すんだ、残ったものはただの物体なんだ、ということを感じ思えるのか、信じられるのか。死んだらおしめえよ、ということを実践することができるのか、ということです。

そういう境地はひとつの悟りの境地ですから、それはりっぱな死生観になります。ただ、この境地にはなかなかたどり着くようにも思いません。葬式をやらないということは、この覚悟をしっかりとやらなければいけないということだと思います。覚悟ができないまま安易にこれを選ぶと、後悔することになります。きちんとお別れをしないままでは、後々までおおきな影響を及ぼすことにもなります。

最近では、葬儀をしないままでも、四十九日を機に、もう一度しっかりと供養をしてほしいという方もいらっしゃいます。葬儀をしないとおっしゃる方は、残った方に迷惑をかけない、という気持ちからだと思いますが、ご家族の方としっかりお話し合いをしていただくことが大切だと思います。

私たちは大昔から、近い方が亡くなったときは哀悼の意を示すということを行ってきました。



人間は動物と違って、近い方が亡くなったとき、ある特殊な行為をすることによって、死者と残されたものを慰めるということを本能的に行っていました。

宗教云々以前に、三大人生儀礼と言われる、成人式、結婚式、葬儀を行うことで、しっかりと区切りをつけて次のステップに上がることにしています。その必要性は十分納得できると思います。

問題は葬儀に宗教（仏教）が関わることは是非、になると思います。最終的には、みなさまひとりひとりが、自分の信じるのがなんであるかをしっかりと見つめていただいて、自分はこうするんだ、ということでご葬儀をお勤めいただくことがよしいと思います。考え抜いた末にご自身で決めたことであれば、無宗教葬であってもかまわないのではないかと思います。自分とご家族が納得できるスタイルを選んでいただければと思います。

日本でもっとも選ばれる伝統的葬儀は、仏教式葬儀になります。仏教はインドが発祥ですので、根底にヒンドゥー文化があります。輪廻思想というのがありますが、仏教では六道輪廻（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天界）が説かれます。この六つの世界はどれも苦しみの世界であり、仏教の最終目的は、悟りを得て輪廻から抜け出て（解脱）、涅槃の世界へ行って、永遠の安らぎを得ることです。

そして、悟りを得るためには、出家をして修行をするということが仏教の基本です。日本では、祖霊信仰と仏教が融合して、死後は仏さまになる（死後成仏）という思想が生まれました。死ぬと仏様の国へ行ってそこで悟りを得る、ということです。さらに、没後作僧（もつごさそう：死んで出家する）が現在の葬儀の原型ということになります。

道筋は宗派によって違いますが、最終的には悟りを得ることが目的になります。日本ではこのような葬儀を何百年も続けてきました。仏教の教えにのっとって故人を送り出して、死後を安心してお任せすることができる、これが仏教式葬儀の意義ということになります。

最近、ハケン僧侶と言われるものも出てきました。お坊さん便などですね。僧侶を紹介することはたいへん増えています。大きなお寺は別としても、ほとんどのお寺がその運営に問題を抱えているのが実情です。お寺側からすれば集客力のあるところから仕事を紹介してもらえることはありがたいと考えているところもありますし、仏教に縁の無かった方に教を説けると考える方もおられます。提携しているお寺も多いですし、需要もあるということです。

しかし、私が宗の事務所で仕事をしていたときに、「お経が短くてあっという間に終わった。」とか「お坊さんとは思えないような態度だった。」とか「お寺の名前を聞いたので、ネットで検索してもなかった、調べてもらえないか。」とかたくさん相談を受けました。派遣型のお坊さんをお願いする際には、紹介会社をしっかりと見定めていただくことが大切だと思います。

また、地元で長く続いているような葬儀社さんだと地縁もあり安心だと思います。これも生きていくうちにしっかりとアンテナを張って信頼できるところを見定めておくことが肝心だと思います。

結論としては、葬儀にあたっては、どのような葬儀を行うのか、どうすれば私自身や残していく家族が納得して心やすらかに旅立つことができるのか、送り出すことができるのか、を考え、自ら選ぶことが重要だと思います。死や死後をどこに見据えるのかを考えることが大切だと思います。様々な道を示しながらも、最終的にはご自身の判断に委ねられることが仏教の最大の特徴ですから、まずは仏教を知る、ということが入口になります。

現在、日本には伝統的な仏教教団が13宗56派あると言われています。そして、それぞれが完成された教義を持っています。最終的には悟りですが、そこに至るためのルートがいっぱいあるということです。

佐々井秀嶺上人特別講演会

日本人でありながら、インドに帰化し、カースト制度に苦しむ下層の人々の支援活動に生涯を捧げ、その活動はマザー・テレサに匹敵すると言われています。（佐々井秀嶺上人の略歴は次ページ上段にあります。）

- テーマ 「インドに残るカースト制度と仏教改宗運動」
- 日時 7月2日（土） 午後2時～4時
- 場所 三鷹市民協働センター第一会議室
- 参加費 1,000円
- 連絡先・申し込み なりきよ 電話 080-1362-5359



そういうなかで、自分を振り返って、自分の置かれた縁によって、この教えを選び取ったという意識が大事なことになります。

仏教は長きにわたって伝わってくる間に、いろいろな知見や体験、経験が複雑にからみあって練りあがってきた人類の知恵の結晶みたいなものですから、どの教えが一番か、ということではなく、人によって違うということなのです。

最近では、日常から老病死、特に死というものに隔離される傾向にあります。それは、同時に私たち自身が最終的に死に至るということを実感する機会が減ってきていることでもあります。そういうなかで、今日のような機会があるということは非常に有効なことだと思います。自分の葬儀をあらためて考えるということ、それは自分の死を考えるということで、死と死後をしっかり考える機会だと思います。

今の生き方をより充実した生き方にしていくことが最終的に自分の死にあたって「ああ、いい人生だったなあ。」と納得した死となる、生きていることが死と直結しているということに気づかされるということになると思います。死を怖がらずにしっかりと向き合うことが、日々の生活をより良いものにする第一歩になると思います。

ご清聴いただきましてありがとうございます。



同日の和泉福音教会牧師 青木 義紀さんのお話「キリスト教での死と葬儀」は、来月のチラシに掲載させていただきます。